ライフケアサポート情報誌

こもれび

KOMOREBI

1年の計は新春にあり

～人生会議のすすめ～

2021
vol.34
新年号

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL.099-284-8250　FAX.099-284-8252
http://www.saiseikai-kg.jp

1年の計は元旦にあり

～人生会議のすすめ～

皆様　新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはご家族やお仲間とともに、佳き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和2年は新型コロナ感染症の世界的パンデミックという新興感染症による命と社会生活の脅威にさらされた年でした。新型コロナ感染症はわが国においても昨年秋頃から第3波を迎え、新年に至っており、未だ収束の兆しは伺えません。

一方、欧米ではワクチン接種が開始され、わが国でも安全性と有効性が確認された段階でのワクチンの接種開始が望まれるところですが、もうしばらくの間、徹底した予防策と慎重な社会行動によりこれ以上の感染拡大、重症者・死者の増加、地域医療の崩壊を防がねばなりません。

今号のテーマは「1年の計は元旦にあり～人生会議のすすめ～」です。

毎年、元旦に心新たに1年の計画を立てられる方々も多いと思いますが、「1年の計は元旦にあり」の由来として2つが紹介されていいます。

1つは中国の明代の馮応京という学者による書物「月令広義」に、もう1つは毛利元就の「一年の計は春にあり、・・・」に由来するとされています。何事も最初が肝心であるという戒めであると考えられます。

わが国は世界一の高齢大国であり、多死社会が進行中です。高齢者人口がピークを迎える2042年直前には年間165万人の死亡が予測されています。

多死社会では、国民が幸せな最期を迎えられるためのQOD（クオリティ オブ デス）の向上、そのための国家と国民のあり方が重要な課題となります。

国民の7割が自宅死を望んでいますが、実際には医療への不安や家族への負担への配慮等により、自宅死の実現は13%前後であり、7割は病院死、残りが介護福祉施設等となっています。

このままの状態が続くとすれば、2030年には看取り難民が約40万人増加することが危惧されています。看取り難民を出さない看取りの場の確保が国家的課題の一つです。

併せて、私達国民側の課題も指摘されています。

だれしも幸せな最期を迎えたいと望んでおり、終活がブームになり、エンディングノートも普及してきているようですが、厚生労働省などが実施した国民の意識調査の結果を見ると、自分の最後に当たってどのような医療を受けたいかなどの意思決定が出来なくなった場合の代理決定者の決定をしている国民は僅か22%（2019）、家族や関係者と話し合っている国民は40%となっています。

人生の最期にあたり、これまで旅立たれた事例等から、幸せな最期を迎えるために必要なことは、①どこのベッドで逝くのか（自宅か、病院か、施設かなど）②誰に介護してもらうのか（配偶者、家族、友人など）③医師

や看護師は誰にお願いするのか(具体的に)④上記を含め、最後の暮らしをどれだけ具体的に思い描けるのかの4つであり、これらについて元気なうちから家族や医療福祉関係者等と話し合い共有・準備しておくことの重要性が指摘されています。

このように、幸せな最期を迎えるための喫緊の課題は、看取り体制の確保、看取りの質の向上策、個人個人の生き方と自覚と準備などが挙げられ、自助・互助・共助・公助レベルでの国を挙げた準備と取り組みが必要と考えられます。

厚生労働省は、看取りの場の確保に繋がる在宅医療や施設の増加策等の検討に合わせて、人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインの改訂を行うとともに、「将来の変化に備え、将来の医療およびケアについて患者様を主体に、家族や近しい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、患者様の意思決定を支援するプロセス」であるACP(アドバンス ケア プランニング)(愛称人生会議)の取り組みを推進しています。

人生会議は、終末期に限定することなく、元気なうちから、自己の望む最後の姿の実現に向けて、家族や医療・ケア関係者と話し合いを重ね、自分の望みを十分に理解してもらい、幸せな最期に繋げるための機会として、元旦や誕生日など節目節目に会議を持つことが進められています。

済生会鹿児島地域福祉センターにおきましてはご入所者様やご利用者様の幸せな人生と幸せな最期を願って、高齢者施設・事業所職員一同真摯に務めさせていただいておりますが、利用者様の幸せな人生の仕上げにはご本人を中心として、ご本人の望みやご要望に添えるように、ご家族・近しい方々と施設・事業所の職員達とが、ともに話し合い、目標や進め方を共有し合いながら支援することが重要です。

元旦にあたって、今号が、ご家族の方々も人生会議(ACP)に関心を持っていただき、ご利用者様のための、さらに将来のご自身のための節目の人生会議の開催を新年の計に活かしていただく一助になれれば幸いです。

今年も鹿児島地域福祉センターの職員一同、ご利用者様の健やかで安らかな日々を願って一層の精進に努めます。

今年もどうかよろしくお願い申し上げます。

皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げております。

済生会鹿児島地域福祉センター所長
吉田　紀子

新年のごあいさつ

新春を迎えて

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

令和2年は新型コロナウイルス感染症に明け暮れた1年でした。

当センターでも、特養をはじめとする各事業所では、日常的な館内の消毒や換気、各居室への空気清浄機の設置、面会制限、夏まつりや敬老会などの恒例行事は規模を縮小して実施するなど、入所者の皆さんの安全を第一に職員一丸となって感染対策を進めてまいりました。

一方、ご家族の皆様には、長期にわたる面会制限により、ご不便、ご心配をおかけいたしましたが、ご理解、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

しばらくは、この状況が続くと思われますが、牛歩のごとく、しっかりと地に足をつけて一歩ずつ着実に歩を進めながら、入所者の皆さんが日々穏やかに笑顔で過ごしていただけるよう努めてまいります。

新しい年が皆様にとって佳き年でありますよう、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

副所長・特別養護老人ホーム施設長
向井　康子

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年は、東京オリンピックの延期、最大のアイドルグループの活動休止、そして、新型コロナウィルス感染症の蔓延など、私たちにとって決して楽しい話題ばかりではありませんでした。いろいろな制約と制限の多かった一年でした。入居者の皆様ご家族様、関係機関の皆様には御礼申し上げます。

新年を迎え、干支の丑年にちなみ、「牛も千里　馬も千里」のごとく、慌てずに私たちの目標に向かって進んでいけることを願っております。そして皆様と輝かしい一年を過ごせるよう頑張って参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

済生会なでしこの杜

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

旧年中は、コロナ禍で物産館・店舗でのお買物、レストランでの食事、地域での文化祭や催し事等々、数え上げればきりがない程の行事や活動を自粛しなければなりませんでした。入居者様をはじめ、ご家族・医療関係者・介護支援サービス事業所関係者等の皆様の感染対策へのご協力や温かいご理解・支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2021年、困難な状況だからこそ入居者様お一人おひとりのライフスタイルに合わせ、明るく健やかに安心して過ごしていただけるよう邁進してまいりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

シルバーフラット武岡台

あけましておめでとうございます
輝く新春を迎え益々のご発展と、なによりも皆様のご健康をお祈り申し上げます
昨年は何といっても、感染リスクを身近に感じ、ご利用者様の安全を守りつつ、最適な支援サービスを提供することに集中した年となりました。今年こそは世の中すべての人々、ご利用者様がより安全に、健康に過ごせる日々が戻ってくると強く願っています。本年も職員一同、ご利用者様の安全と日常生活支援に誠心誠意に努めてまいります。今後ともご意見・ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

武岡台デイサービスセンター

明けましておめでとうございます。
昨年は新型コロナウィルス感染症の影響で私たちの生活様式は一変しました。
1日も早いコロナの収束を願うばかりです。
このようなご時世の中でも、その時々の状況に応じ、ご利用者様おひとりおひとりが安心してご本人様らしくそれぞれの望む生活を実現できるよう引き続きサポートさせていただきます。
本年もどうぞよろしくお願い致します。

指定居宅介護支援センター高喜苑

謹んで新春のお喜びを申し上げます。
昨年は新型コロナウイルス感染症により、感染症に対する関心と恐怖が高まった一年でした。今年も感染症対策は必須です。利用者様が日常生活に当たり前として感染対策を取り入れ、持病を抱えながらも安心して自宅で過ごせるように職員一同努めて参ります。
どうぞ、本年もなでしこ訪問看護ステーションをよろしくお願い申し上げます。

なでしこ訪問看護ステーション

謹んで新春をお祝い申し上げます。
昨年は新型コロナウイルスにより、利用者、ご家族だけでなく、職員ともども我慢を強いられる年となりました。今までは、好きな時に、好きな人と、好きな場所へと「あたりまえ」にできていたことが「あたりまえ」ではなく、とても幸せなことであったと気づくことができた年でもありました。
令和3年の干支である丑(うし)は、先を急がず一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年とも言われます。今できることを一つずつ着実に積み重ねていきたいと思います。
本年も宜しくお願い致します。

グループホーム武岡ハイランド

笑う門には福来る。
明けましておめでとうございます
昨年は、コロナの1年で面会もままならず、ご心配なことだったと思います。
苑では、元気に笑顔で過ごして頂けるよう、レクリエーションや行事を行いました。
今年も、入居者様の笑顔がたくさん見れるよう、楽しく過ごしていただきたいと思っています。
今年もよろしくお願い致します。

グループホーム武岡五丁目

謹んで新春をお祝い申し上げます。
昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により大変な年となりました。
生活も一変し何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が取り戻せるよう心から願っております。
本年も誠心誠意、心のこもった質の高い介護サービスを提供できるよう努力して参りますので、よろしくお願い致します。

ホームヘルプステーション高喜苑
済生会サポートセンターなでしこ

特集

「もしものこと」考えたことありますか？

医療や介護など、様々な分野でよく用いられる「QOL」。一般的に「生活の質」と訳されることが多く、利用者が精神面や肉体面でどれだけ人間らしく豊かに生きるか、ということを図る概念です。また、利用者が介護サービスを受けて改善するべき日常生活の質を表現する言葉でもあります。かつて、福祉の分野においては「ADL（日常生活動作）」の自立が重視されていましたが、現在では治療やADLの自立とともに、QOLも考慮されるようになってきています。

ここ近年においては、QOLに相対する「QOD（Quality of Death）」が注目されてきています。

平均寿命が年々伸びる傾向にある一方で、健康寿命との差は広がりを増し、高齢者の要介護期間も長くなり、高齢者にとって「死」に至る介護の過程はより深刻な問題になってきています。

近年では高齢化による老衰死が増加し、最期を住み慣れた自宅で迎える人や看取る人も増えてきています。多死社会のQODを高めるために施設の在り方や在宅医療の充実等、人生における終末期において、最期をどこで迎えるのか、幸せな最期を迎えるために考えていきましょう。

QOD（Quality of Death）クオリティ・オブ・ディス とは？

死のあり方や死を迎えるまでの過程、死の迎え方などを意味する。「良い死（Good Death）」と表現されることもあり、自分自身も家族も、安らぎを持って、尚且つ納得できる死を迎えるための概念とされる。

QODにおいて本人が望む「最期」について家族間で話し合うこと

終末期の治療方針等について、患者や家族が医師らとあらかじめ話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」への取り組みが進む中で、終末期医療では、患者の意思が分からず家族や医療現場が判断に悩むケースが増えています。本人が望む「最期」の実現に向け、話し合いを重視し意思決定のあり方を通して質の高い死を考えましょう。

ACP（Advance care planning）
アドバンス・ケア・プランニングとは？

将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、その家族や近しい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスをいう。

「人生会議＝アドバンス・ケア・プランニング」

人生会議（ACP）
ロゴマーク

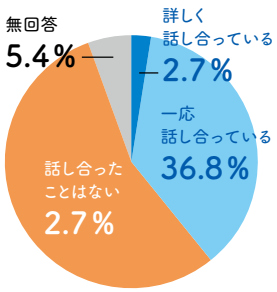
出典：厚生労働省「人生会議（ACP）普及・啓発リーフレット」

ACPにおいて何を話し合えばよいのですか？

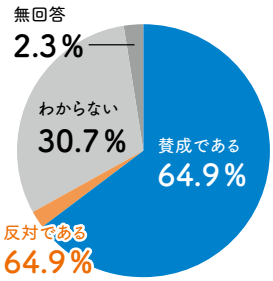
これからの治療やケアについて話し合うことが大切です。

① 大切にしていることは何かを考える
② 信頼できる人は誰かを考える
③ 主治医に質問してみる
④ 治癒が不可能な病気になり、回復が難しい状態になった時のことを考える
⑤ 話し合った内容を医療・介護従事者に伝えましょう

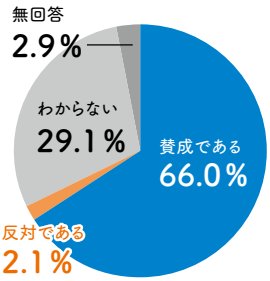
人生の最終段階における医療・療養に関する家族等や医療介護関係者との話し合いの状況



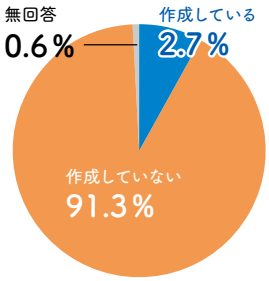
家族等や医療介護関係者等とあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことについて



どのような医療・療養を受けたいか等を記載した書面をあらかじめ作成しておくことについて



意思表示の書面作成状況

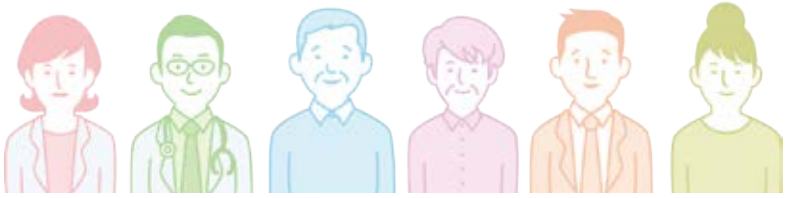


出典：平成29年度人生の左右段階における医療に関する意識調査（厚生労働省）

ゼロからはじめる人生会議

「もしものとき」について話し合おう

「もしものこと」を考えたことがありますか？
心の余裕のある時に、じっくりと考える時間を持ち、そして、あなたの考えを大切な人に伝えてみませんか？



◎ あなたは、「もしものこと」を考えたことがありますか？
◎ 人はみな、いつでも、命に関わるような大きな病気や、ケガをして、命の危険が迫った状態になる可能性があります
◎ 命の危険が迫った状態になると約 4 分の3の方が、これからの治療やケアなどについて自分で 決めたり、人に伝えたりすることができなくなるといわれています
◎ 治療やケアに関する考えを、あなたの大切な人と話し合っておくと、もしもの時に、あなたの考えに沿った治療やケアを受けられる可能性が高いといわれています

自分が希望する医療やケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを受けたいかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。

患者さんの意思を尊重した医療及びケアを提供し、尊厳ある生き方を実現することがACPの目的です。

医療及びケアの提供は、患者さんの意思が一番大切なことで、患者さんが意思が明らかにできるときから、繰り返し話し合いを行い、その意思を共有することが大変重要です。

出典：厚生労働省「人生会議（ACP）学習サイト」より引用

済生会なでしこの杜での「ACPとQODを考える」

サービス付き高齢者向け住宅 済生会なでしこの杜は、サービス付き高齢者向け住宅として多様な高齢者の方にご入居頂いています。入居者やご家族と『生活するうえでの「思い」「考え」「目標」』『健康に気を付けていること』『病気への不安』などを入居契約時から入居後に渡り、お話を伺う機会があります。入居契約時には、入居費用や住宅での生活支援サービス、介護・看護・医療の様々なサービスのご利用について、また「認知症状や精神行動障害」などにより、共同生活に適さない状況になった場合や「高い医療依存」の状況になった場合のお住み替えについてもお伝えします。ご入居後には、ご本人やご家族に「急変時の対応やどこでどのように最期を迎えたいのか」等を伺うようにしています。このタイミングは、私たち職員とご本人、ご家族との関係性がある程度構築されてからでなければ、なかなか図れない状況です。

「自宅での終末期」を望まれる方が多い中、私たちは、ご本人ご家族のご意向を確認しながら「望む暮らし」と共に、「望む最期」についてもサポートしていきたいと感じています。ここに、入居者2名の方にACPを実施させて頂きましたのでご紹介いたします。

事例 1

▶ **対象者本人へのヒアリング**

▶ **対象者**

慢性疾患があり日常的な医療管理を必要とされる83歳女性、要介護1

▶ **担当者**

住宅管理者、担当ケアマネージャー

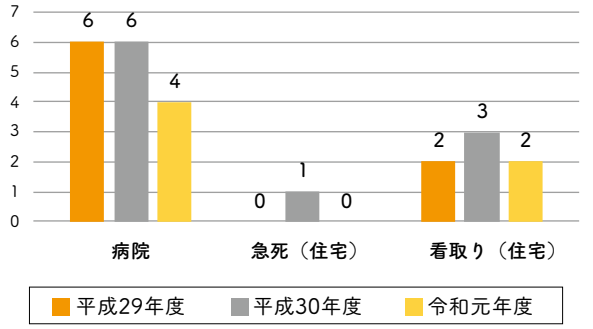
【まとめ】

対象者は生活機能が自立され、コミュニケーションや意思決定にも問題が見られません。今回、現状に対する本人の思いや考え、新たな目標を聞き取ることができました。ご本人の今後に対する意向や目標に沿っての支援を実施していきたいと感じました。今回は聞き取りが出来なかった何点かのうち『今後の、もしもの時について』も、一緒に考えていければと感じました。

設　問	内　容	本人の思い
本人の客観的状況	週3回の病院受診を行う 生活行為は自立。認知面の問題もなく意思決定も可能 ご主人が最近他界	住宅に居住して、友人ができた。会話をすることが楽しい。 帰ってくる居場所があり嬉しい。
現在の健康状態	血圧が不安定である。 内服をすることで落ち着いている。	胸の痛みが時々あると不安であるが、主治医や看護師等が良くしてくれるので、指示通りにしている。
身体や病気で心配な面	継続した医療管理が必要である。 血圧の変動が見られている	
医療介護のサービス利用状況	週3回の定期受診、他眼科等への受診。訪問看護利用	
家族構成や暮らしぶり	ご主人が他界され、一人息子は県外に居住。 近隣には近しい身内はいない。	県外に子供や姉妹がいる。 近くに頼れる人がいないので寂しく心細い。
今後大切にしたい思い		ご主人の7回忌まで元気にしていたい。京都の寺にご主人を連れていく目標がある。動けるうちに息子の近くの施設に入りたい。
家族や親しい人に伝えておきたいこと		
意思決定が出来なくなった時代わりに判断してほしい人や希望		今は妹と電話でなんでも話している。いざとなったら息子に頼りたい。
医療やケアに対する希望		今は大丈夫、先はわからない。 病院の人たちが良くしてくれる。
延命治療をどこまで行うか、積極的な治療より自然な最期を迎える方がいいか、痛みや苦しみに対する治療をどこまで受けたいか		※今回のヒアリングでの聞き取りは実施できず。

さて、ここ数年の住宅での「死亡状況と場所」について報告します。過去3年で24名の入居者がお亡くなりになり、内3割の方が住宅にお住まいになりながら最期を迎えられました。これは「住み慣れた住宅で最期を迎えたい」との意向を確認した後に、住宅内の介護、看護、ケアマネージャーと在宅支援診療所等との連携のもとに実施できた結果です。

【死亡状況と場所】



※参考資料：死亡状況と場所

ACP実施の流れ

厚生労働省の「人生会議」の資料をご覧いただきました。その後「ＡＣＰ話し合いの手順」に沿い、何点かについて質問を行い、「望む暮らしと望む最後」について思いや考えをお伺いしました。

事例 2

▶ **対象者家族（息子様）へのヒアリング**
（サービス担当者会議開催時）

▶ **対象者**
在宅酸素療法があり、日常的に介護・看護を必要とされる97歳女性　要介護4

▶ **担当者**
住宅管理者、担当ケアマネージャー、訪問看護師、サービス提供責任者

【まとめ】

今回はご家族に「お母様への思い」を急変時の対応を含め聞き取りをさせて頂きました。これまで幾度か体調を崩される場面があり入退院を繰り返されることがあったそうです。その過程で、ご本人の「人生最後」のお考えも確認をされていました。

また、住宅に入居される際には数10か所の施設の見学をされ、「お母様のお住まい」を探され選択されたそうです。今後も、なでしこの杜での取り組みに満足頂けるよう、ケアや看護の充実、そして何より今だからこそ「生活の質」の充実が求められると感じました。

設　問	内　容	息子様の思い
本人の客観的状況	日常生活をほぼベッド上で過ごし、自室内のトイレへの移動は歩行器や車椅子でどうにかできる。趣味の短歌を詠まれるなど感情豊かな方である。	98歳を迎え、あと数年だと感じています。本人が苦しみなく生活できるようにさせたいです。少しのわがままも許し、好きなものを飲み食いさせ、制限することなく満足感を与えながら生活させたいです。 本人は短歌を詠む等感情豊かですが、最近はよく泣くことがあるので少し心配しています。コロナ渦で思うようにそばにいることが出来ないのが辛いです。 遠方にいる姉妹にも様子を伝えています。もしもの時の話しも兄妹でしています。
現在の健康状態	水分制限もあり在宅酸素療法を受けている。臀部の皮膚状態の悪化が見られており処置を受ける。	
身体や病気で心配な面	活動時の酸素濃度量が低下する。	
医療介護のサービス利用状況	24時間定期巡回介護看護サービス。訪問入浴サービス。在宅支援診療所の訪問診療。	
家族構成や暮らしぶり	近隣に息子さん夫婦が在住。定期的な訪問がある。	
今後大切にしたい思い		
家族や親しい人に伝えておきたいこと		
意思決定が出来なくなった時代わりに判断してほしい人や希望		本人は「延命を望みません」。これまでの複数回の入退院の時に確認しています。
医療やケアに対する希望		今回ACPの話しがあって考えました。転んで骨折をしたりした時、本人が痛い思いをするような場合は救急搬送をしてください。それ以外は主治医へ連絡をしていただき、延命は望みません。
延命治療をどこまで行うか、積極的な治療より自然な最期を迎える方がいいか、痛みや苦しみに対する治療をどこまで受けたいか		

特別養護老人ホーム高喜苑でのQODの取り組みについて

特別養護老人ホーム高喜苑では、入所される時と入所してからも定期的に本人やご家族、施設スッタフ等が集まり担当者会議を行います。その担当者会議の中で「看取りとなった場合、その時をどのように過ごしたいか？・看取りになる前にどうしてもやりたいことがないか」等、ご本人やご家族のご意向を毎回確認しています。また、その中でご存命中にやり残しが無いようにご家族から様々な情報収集を行っています。頂いた要望の中で私たちにできることがないか看取り委員会で話し合い、その人らしい最期が迎えられるように悔いの残らないように支援を検討しています。

看取り委員会とは…

看護師・ケアマネージャー・生活相談員・管理栄養士・介護福祉士で構成されており毎月一回委員会を開催しております。
その他にも必要時、適宜委員会を開催しております。

これより事例を紹介いたします。

担当者会議の際に娘様より「生まれ故郷にいる母の姉妹に会わせたい」「母も要介護状態になる前に望んでいた」と思いを伝えて下さいました。

要望をお聞きしてから委員会で話し合いを行い、日程の調整や人員調整を行いました。

一度は、お姉様の体調が思わしくないとの事でしたが、日頃からよく面会に来ていただいている娘様から連絡を取って頂き、再度日程調整等を行いました。

当日は、担当職員と看護師が付き添い、40ｋｍ離れた故郷へ出かけ、姉妹と数年ぶりに再会できて楽しい時間を過ごされていました。

半年後、ご本人様はお亡くなりになり、お通夜に参列致しました。

そこでご家族より「あの時に姉妹に会わせてあげられて良かった」「悔いはありません」「ありがとう」と感謝の言葉を頂きました。

ご利用者様やご家族からの希望が叶い、最期を迎えられたことでご家族も満足し、心残りが少なかったように思います。また、職員も「ご本人様の希望が叶えられて良かった」と達成感を得ることができました。

『看取りとは、その人らしさ』

「お元気な頃、何をしていらしたのか？」「最期に何を望んでいるのか？」

しっかりとご家族で話し合っておくことが重要です。死とは人間誰しも避けられないものです。怖がらずに親族の方と話し合いを行ってください。

そうすることで悔いのない最期を迎えられると思います。

今後も、その人がどのようなことを思い、どのような最期を迎えたいかご希望に添えるように支援していきたいと思います。

KOMOREBI TOPICS こもれびトピックス

『お陽様体操』

済生会なでしこの杜

　済生会なでしこの杜は、11月で開設7年目を迎えました。この間、日曜日以外の毎朝10時過ぎからラジオ体操を実施しています。「ラジオ体操第一、第二」を通して取り組むと、体が温まり結構な運動量になります。何気ない雑談と共に5名から10名程度の方が参加されています。

　今年は、新型コロナウィルス感染症予防の為、入居者の皆様は思うように外出することが出来ていません。そこで、入居者の皆様の少しでも気分転換になればと、過ごしやすくなった秋口から、お天気の良い日に外に出て「お陽様体操」と銘打ったラジオ体操を行うようになりました。外の空気に触れ、陽を感じることで皆さんとてもはつらつとされます。丁度この日は、雲の合間にお日様を感じる天気でしたが、雲隠れする太陽の動きにも目をやり楽しいひと時を過ごすことができました。

10月9日・10月16日に
秋のドライブ!? & 秋の味覚楽しむ会を行いました。

特別養護老人ホーム高喜苑

　10月になると各地の山々で紅葉が色づき始め見ごろを迎えます。例年であれば鹿児島市の紅葉スポットに向かうのですが今年度は新型コロナウイルスの影響でリモートドライブと焼き芋・五平餅を焼いて楽しみました。

　リモートドライブの方法としては、部屋の照明を落としプロジェクターとパソコンを準備して動画配信サービスを利用して鹿児島県内や鹿児島以外の紅葉スポットの上映を行いました。ご入居者様からは「きれいだね・秋を感じる・今日はありがとう」などの声が聞かれました。

　また、リモートドライブの後は、焼き芋・五平餅を焼いてみんなで食べました。五平餅は、栄養士が作り方の説明をしてご入居者様自身で形を整えて頂きました。ご自分で作った餅はとても美味しそうでした。

　今回は、コロナ禍の中で出来る事を考え立案・実施しました。
コロナ禍で下を向くのではなく新たな発見があり良かったと思います。

　今までは、ドライブに行くには多くの職員を配置していましたが、パソコンとプロジェクターさえあればご入居者様にドライブの雰囲気を味わっていただけるという事に気づきました。

　体調が不安定だったり天候が悪くても外出したような気分を味わえるので、これからも活用していきたいと思いました。

　実際にこの後には、プロジェクターを使用して映画鑑賞や昭和音楽会を実施しており、盛況ぶりがご入居者様から伝わってきました。

　新たな時代に柔軟に対応できるようにケアを行ってまいります。

〈基本理念〉「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑
〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-284-8253　FAX 099-284-8252

シルバーフラット武岡台
〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6870　FAX 099-283-6871

済生会なでしこの杜
〔サービス付き高齢者向け住宅〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-202-0710　FAX 099-283-4733

指定居宅介護支援センター高喜苑
〔指定居宅介護支援事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-4737　FAX 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目
〔認知症対応型共同生活介護事業所〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目16番23号
TEL 099-282-6081　FAX 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド
〔認知症対応型共同生活介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-7231　FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター
〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6880　FAX 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡
〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6880　FAX 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション
〔指定訪問看護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-281-9292　FAX 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑
〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875　FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ
〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875　FAX 099-283-6876

訪問給食センター 高喜苑
〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-283-4730　FAX 099-284-8255

鹿児島県済生会
〔支部〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-210-5460　FAX 099-210-5560

編集後記

昨年は新型コロナウイルスの影響で様々な変化があった年でしたが、反面新しい生活様式で家族で過ごす時間が増え絆が深まったのではないでしょうか？ 当たり前にできていた事が当たり前ではなく、とても幸せなことだと気付かせてくれた年だと思います。今年は目の前にある小さな幸せをしっかりと見つめて感謝して過ごしていこうと思いました。